

令和5年11月定例会 個人質問

高村の質問と理事者答弁の一部を抜粋して掲載しております。

今議会にデジタルを推進する条例の提案があり、来年には申請や手続きにおけるデジタル化が加速致します。

しかし、まだまだ十分とは言えない自治体DXについて、新しい考え方や手法について、これまでとは違った角度から提案致しました。

生成AIの利活用状況について

Q 本市は、生成AIの利用を開始しているが、具体的な業務は何か。また、利用に際しての注意点や、その知識の共有方法についても、お教え願います。

A 行政経営部長 答弁
具体的な業務は、文章の要約、まとめ、文案の作成、知見やアイデアの提供など。

利用に際して認識しておくべき注意点として、情報漏洩、内容の正確性に関する疑義、知的財産権侵害などのリスクがあり、その対応についてガイドラインにて全庁に示している。

市民サービスコーナー廃止による今後について

Q 和6年2月末をもって、市民サービスコーナーが廃止となる予定だが、その後は、各種証明書の発行の取り扱いは、市役所や各出張所とコンビニという事になる。

今後の利便性向上として、発行時間の拡充や、現在対応出来ない各種証明書の発行の拡充、庁内1階フロアにキオスク端末を設置してはどうか。

庁内1階フロアにキオスク端末を設置し、その場で職員によるコンビニ交付の操作説明ができ、今後コンビニでの交付の利用促進が期待されるのではないかと。

A 市民部長 答弁
コンビニは庁舎内や市内に約120か所あり、市役所本庁舎地下1階にもございます。

本庁舎地下コンビニでの証明書発行について、市民課等窓口で、積極的に声かけをしているので、市として独自にマルチコピー機を設置する予定はない。

意見
端末の設置に予算や業務の面で課題があるなら、窓口近くや専用ブースを設けて、マルチコピー機に模した箱等で交付の疑似体験ができれば、実際の操作に対する不安を軽減できるのではないかと。

データドリブン政策の推進について

Q 市民の声を公募するパブリックコメントはエビデンスベースの政策立案の取り組みの一環であるが、集まった意見が0件というものが多く見受けられる。

担当所管にとっては、一見好都合かもしれないが、施策や予算の提案にあたっては説得力に欠ける事や、懸念材料となる事もある。また、沢山意見が集まっていたとしても、政策的に偏った意見が集中している場合は、これまたエビデンスとして不十分である。本市のパブコメで意見を集める工夫が必要ではないかと。

A 市民部長 答弁
できるだけ早い段階での市のHPで実施予告や市報への掲載、FacebookやLINEなどのSNSを活用している。また、意見収集の工夫は、市の窓口への直接提出・郵便・FAX・メールと、市HPの電子申込システムなどを活用している。今後も多様な手段を用いた意見の募集に積極的に取り組む。

意見
色々やっても、市民の目につかない事もあり、そもそも「パブコメ」という言葉自体が市民に馴染みがないのではないかと。主役となる市民に親しみを感じ、積極的に声を届ける・参加するきっかけとなる愛称を生成AIの力を借りてみては？

吹田市のデジタル政策について

Q 10月に行われた政策調整会議で、「情報政策室」から「デジタル政策室」改名する事が承認された。

この変更は、単なる名称の更新に留まらず、市政のデジタル変革の、中心的な役割を担うハブとして、組織や業務のイノベーションを目指す重要な一歩であると認識する。

この改名のその背後にある具体的な役割や計画、取り組みの方向性や目標についてお示しを。

A 行政経営部長 答弁
本市のDXは、これまでペーパーレス、キャッシュレス、サステナブルといった観点を柱として進めてきた。現在、新たな計画の策定について、市が目指す姿やビジョンを改めて整理している。

新名称の組織を中心に、新たな計画の下、デジタル化を通じた市民サービス向上や業務効率化に資する政策をより一層強力に、また、一段高い視座を意識して進める。きっかけとなる愛称を生成AIの力を借りてみては？

小学校スタートアップ支援者について

Q 小学校1～2年生の、学習・生活面におけるきめ細やかな支援を行う小学校スタートアップ支援者について、8:30～12:30までの4時間勤務を原則としているが、授業は12時30分では終わらず、給食の後も授業が続くので、勤務時間を延長する等、授業の最後までサポートできる体制を構築するための募集を検討してはどうか？

A 教育監 答弁
現在、支援者につきましては、1日4時間、週4日勤務の会計年度任用職員として任用しており、御家庭の事情から、フルタイムでは働けないという方にとって勤務しやすい条件となっており、現在同条件を希望する応募者が多数登録されている。今後は学校のニーズを考慮した上で、勤務時間を前後に設定するなど、より柔軟な人材の配置について検討する。

意見
現状は各校に1～2名の配置で、特に1名の配置だと、ピークタイムとしては出勤時間の8:30頃と終了時間となる給食の始まる頃であり、勤務時間をずらしたところで抜本的な解決にはならない。勤務時間の調整をするなら、各校もう1人ずつ配置できるように予算をつけ、児童の学校生活をしっかりとサポートし、学校現場の負担軽減を図れるよう要望する。

個人質問の冒頭で、10月31日に亡くなりました、石田修平議員に対する追悼の意を述べました。会派は違えど、同期として懇意にさせて頂いていた石田議員の訃報は、今もなお深い悲しみに包まれております。改めてまして、謹んで心から追悼の意を捧げます。

